

## 2021年度 自己点検・評価チェックシート 学部・研究科名：文学研究科

※学部・研究科ごとに作成してください。

確認事項1 3つのポリシー		
(1) 3つのポリシーを教授会・運営委員会等で確認した	<input checked="" type="checkbox"/> 確認した	2021年7月 会議名：文学学術院教授会
	<input type="checkbox"/> 確認していない	年 月 確認予定
(2) 3つのポリシーは学生や社会に公表されている	<input checked="" type="checkbox"/> 公表されている	<input checked="" type="checkbox"/> 要項 <input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> パンフレット <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<input type="checkbox"/> 公表されていない	公表予定時期：

確認事項2 学修成果		
(1) 学修成果を設定している	<input checked="" type="checkbox"/> 設定している	⇒確認事項(2)、(3)を記入
	<input type="checkbox"/> 設定していない	2022年 月 設定予定
(2) 学修成果の内容	<input checked="" type="checkbox"/> 各学部・研究科のDPと関連付けて設定している <input checked="" type="checkbox"/> 複数の方法で根拠に基づいて測定することが可能である <input checked="" type="checkbox"/> 知識、スキル、態度をバランスよく含んでいる <input type="checkbox"/> 「学生は、～することができる」といった形式にするなど、わかりやすく記述している	
(3) 学修成果を明示している	<input type="checkbox"/> 明示している	<input type="checkbox"/> 要項 <input type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> パンフレット <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<input checked="" type="checkbox"/> 明示していない	2022年10月 明示予定
◆明示している学修成果		

### <3つのポリシー・カリキュラム・入試制度の変更>

※2020年度4月以降に変更を決定した項目があれば記載してください。本チェックシートの別項目で記載している場合は不要です。

項目	変更時期	変更内容	変更理由

※以下は該当する学部・研究科のみ記載

確認事項 3-3 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応③ 指摘事項： 学位授与方針に、修得すべき知識、技能、能力など当該学位にふさわしい学習成果を示していない

該当箇所： 法学部、政治学研究科博士後期課程ジャーナリズムコース、経済学研究科、文学研究科、教育学研究科（教職大学院を除く）、国際コミュニケーション研究科

(1) 指摘事項への対応を行った	<input checked="" type="checkbox"/> 対応した	2021 年 7 月 会議名：文学学術院教授会 ⇒(2)(3)を記入
	<input type="checkbox"/> 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の学位授与方針を公表している	<input checked="" type="checkbox"/> 公表している	<input checked="" type="checkbox"/> 要項 <input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> パンフレット <input type="checkbox"/> その他（ ）
	<input type="checkbox"/> 公表していない	公表予定時期：2022 年 月～

人と情報が地球規模で交流する現在にあつては、各地域の文化も複雑に絡みあい、ますます多面的な様相を呈してきている。文学研究科は、そうした新しい時代を見据えて、人類が生みだしてきた人文科学の知の財産を継承しつつ、たゆまぬ知の探究により、多様化する社会に応える新たな価値の創造者として、明日の人類文化に寄与する学識豊かな人材の養成を目標とする。その実現のための方針は以下のとおりである。

**修士課程**

文学研究科において修士課程を修了する者が身につけるべき知識、能力を以下のように定める。本課程に2年以上在籍し、所定の単位を修得するとともに研究指導を受け、修士論文を提出して最終試験（口述試験）に合格した者は、これらの知識、能力を身につけていると認め、修士の学位（文学）を授与する。

- 1 人文学のそれぞれの分野における高度に専門的な文献を読み解き、健全な批判精神を持って分析し、新たなテーマを発見していく能力。
- 2 実験やフィールドワークを行う分野においては、目的にかなった調査を立案実施し、そこで得られたデータを的確に分析し、研究に活用する能力。
- 3 先行研究から得た学識に、新たな知見を加え、的確な表現で説得力のある論文にまとめる高い言語能力。
- 4 多面的な様相を持つ現代社会のなかで、能力や素養を活かすべく他者との相互理解を実現し、自らの学問的発見を積極的に発信しつつ、専門的な貢献を行う能力。

**博士後期課程**

文学研究科において博士後期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力を以下のように定める。本課程に3年以上在籍して複数指導教員の下で研究計画を練り上げ、学会等での研究発表ならびに学術誌への論文投稿と掲載を経て、博士学位請求論文を提出し、審査（論文審査委員会、学位委員会、教授会）を経て可と認められた者は、これらの知識、能力を身につけていると認め、博士の学位（文学）を授与する。

- 1 修士課程で得た知識をさらに深め、より広い視野から新たな問題を発掘し、十分な研究の蓄積を経て、それぞれの学問分野に寄与できるような論理的かつ実証的な論文をまとめる能力。
- 2 研究者として自立し、計画的に活動を進めると同時に、広範囲における学問的発信と交流を行っていきける能力。

- 3 独創性を持ち、現代における複雑で学際的な問題系にも柔軟に対応していける能力。
- 4 健全な批判精神を持ち、社会および自然界の事象を多面的に捉え、既存の問題設定に対して建設的な提案を行う能力。

確認事項 3-4 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応④ 指摘事項： 教育課程の編成・実施方針を学位課程ごとに設定していない。

該当箇所： 政治学研究科、法学研究科、文学研究科、商学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、社会科学研究科、人間科学研究科

(1) 指摘事項への対応を行った	<input checked="" type="checkbox"/> 対応した	2021年7月 会議名：文学学術院教授会 ⇒(2)(3)を記入
	<input type="checkbox"/> 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の教育課程の編成・実施方針を公表している	<input checked="" type="checkbox"/> 公表している	<input checked="" type="checkbox"/> 要項 <input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> パンフレット <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<input type="checkbox"/> 公表していない	公表予定時期：20 年 月～

「学問の独立」の教育理念を掲げる本研究科は、人文科学専攻の下、修士課程 22 コース・博士後期課程 21 コースから構成されており、各コースの専門性に対応する研究指導、演習、研究、特論をそれぞれ設けている。これに加えて、共通科目として、講義と外国語を置く。国内 9 大学の大学院と交流の協定を結び、これらの大学院が設置する講義・研究指導を受けることが可能な態勢も整えている。海外の大学等との間で結ばれている数多くの協定に基づき、学生個々の研究上の必要に応じて海外の大学院で研鑽を積めるよう、多彩な留学プログラムも用意している。

修士課程においては、各コースの定めに従って 32 単位を取得すること、および修士論文を提出して審査に合格することが修了要件である。他コース設置科目・共通科目（講義）については 14 単位、本学他研究科設置科目・大学院全学共通設置科目・大学院生開放科目・協定大学院科目については 10 単位までの取得が認められる。1 年次においては、こうした講義科目によって幅広い知識を得ながら、自らの研究分野の資料を読んだり、調査・実験などのデータを蓄積して分析を行ったりする力を高めることが求められる。2 年次においては、1 年次において培った力をもとに、論文を書いていくことが求められる。指導教員の研究指導は、修士論文の完成を目標として、調査・研究などについて全般的に指導する。

博士後期課程においては、指導教員の研究指導の下に、学際的な視野を持って社会および自然界の事象を多面的に捉えながら、いっそう専門性の高い知識を身につけ、研究成果を投稿・発表し、博士論文を完成させることが目標となる。1 年次においては、研究倫理教育を受け、博士論文計画書を提出し、研究指導を受けつつ研究を進め、「博士後期課程『研究経過・研究業績』報告書」で進捗状況を報告することが求められる。2 年次においても研究指導を受けつつ研究を進め、「博士後期課程『研究経過・研究業績』報告書」で進捗状況を報告することが求められる。3 年次までをめどに、全国的もしくは国際的な学会での 1 回以上の口頭発表を行い、学術誌（査読制が望ましい）に 1 編以上の論文を掲載することが求められる。博士学位請求論文提出の 1 年程前までに、本研究科主催の論文構想発表会において口頭発表を行い、博士学位論文の執筆継続について可否の判断を受ける。博士学位請求論文を提出して審査に合格することが修了要件である。指導教員（副）も置き、学生の研究の方向性に関して、より客観的な助言が得られる制度を設けている。

※確認事項 3-1、3-2、3-5、3-6、3-7、3-8、3-9、3-10 は該当なし